

附属図書館の機能と今後の課題

附属図書館長 林 弘

1 はじめに

大学附属図書館は、学習・教育・研究を支える基盤組織であり、横の広がりとして、すべての部局に関連しているばかりでなく、近くは地域社会、遠くは世界の動きと繋がって動態機能を発揮しなければなりません。このような広い範囲に渉る最新の学術情報の迅速な検索・発信機能と併せて、時間軸としても、図書資料を継続的に保存する役割を通じて大学の歴史を背負っております。

国立大学は、戦後50年を経て、組織の上でも大きな曲がり角にきています。来年度に控えた徳島大学の法人化に併せて、学習と研究に関する支援・基盤組織としての図書館の役割と今後の課題について考えてみたいと思います。

2 学習図書館機能

大学の文書では、よく「教育・研究」と中が

ツ併記しますが、「教育」というときは教官が教えるという立場で述べています。大学は学生諸君が「自ら学ぶ」ところでなければなりません。そのために、附属図書館は、自然に足を向けたくなるようになって欲しいと願っています。

蔵書目録 検索は図書館に何があるか？からはじまります。所蔵目録の遡及入力10ヶ年計画は順調に進捗しており、学術雑誌は別として、蔵書80万冊、入力必要数36万冊のうち12万冊が入力済みです。所蔵資料の電子化の基礎として作業を継続しますので、OPACを活用して、読みたい図書を検索してみてください。

図書館には週に何回？ 入退館システムが整備されてから入館者数の詳細が把握できるようになりました。最近では学生が本を読まないとか、図書館など一度も行かずに卒業しているとか、

赤提灯での演説も判るような気はしますが、徳島大学の在籍者一人当たり年間(11ヶ月)平均入館回数は33.5回、開講30週当り毎週1回は図書館に足を運んでいることとなります。学部や学年、人によって、また試験期と夏休みなどバラツキはありますが、かなりの数値だと思いません。

メディア・プラザと冷暖房完備 なぜ図書館に行くのでしょうか？その昔、図書館は咳払いも遠慮して静かに本を読むところであったと思います。白髪の老教授が黙々と書籍を探しておられる横に立って、ある種のアカデミックな緊張を感じたことを想い起こします。図書館も随分と姿を変えました。マルチメディア・プラザではパソコンを利用することができるので、いつも賑わっています。OPACを使ってみよう。

静かに本を読む開架閲覧室とは少し離れたところに共同調査や討議のできるグループ研究室や学生自習室があります。冷暖房完備に惹かれて結構です。どんなところか？まず足を運んでみましょう。そこには大学があります。

学びの相談室 共通教育や工学部では、附属図書館の一室を利用して学習相談の試みを始めています。むずかしい質問をしてチューターを困らせても構いません。大学院生にも勉強になります。ここにも大学があります。

留学生用図書 海外の国々から多くの留学生を迎えています。留学生は専門分野の学習と併せて、われわれは当たり前と思っている風習常識に戸惑うことが多いようで、まず日本を理解して貰うことに特別の配慮が必要と思われる。留学生用図書については、平成4～12年度に涉って学内措置でかなりの額の予算が配分されており、本館3階に開架式にて特設コーナーを設置し、纏めて配架しています。本学の諸君で海外に留学しようと考えている人ものぞいてみてください。薄っぺらいので良いから最

新情報を、というのは図書館では用意できません。自分で買きましょう。

作品展示 附属図書館の壁面を利用して、総科の絵画専攻の学生諸君の作品が展示されています。億のつくピカソではありませんが、大学にいることを感じます。

3 研究図書館機能

附属図書館の基本的な役割のうち、研究基盤に係わる学術情報の検索機能は大きく姿を変えつつあり、卒論生・大学院生や教職員が、図書館に足を運んで冊子体図書を通じて調査を行なう時代から、研究室の端末でアクセスできる時代に移行して、利用形態の変貌にまで及んでいます。

研究評価の数値基準 夜中までかかって実験をした。小判が出るか蛇が出るか？予期せぬ事の中しても、何日も夜を徹して書いた論文は隅々まで実験の情景が浮かぶ。論文は質だ。いや数もそこそこないと・・・、なんの議論をしていたのか。事は要するに研究評価の問題だということです。

「某君は論文を何報書いた」で通っていた頃もありますが、誰も読まないものだと何をしていたのか問題です。Impact factor と Citation, すなわち、評価の高い学術雑誌に掲載され、多くの関連研究者に引用され続けることは、当該分野を牽引してきた数値的証拠になるでしょう。

世界の研究情報のデータベースとして評価の高いSciFinder Scholarについては、高額ながら各部署の拠出および学長裁量経費による補填のお蔭で導入できました。また、研究評価については、多くの大学でISI社(Inst.Sci.Info.)のWeb of Science, とくに Science Citation Index が導入されており、すでに25大学を超えています。常に科研費では15～20位にあり、COEにも採択される高度な学術拠点である本学においても、その研究成果について世界の関連分野への

波及実態を自ら評価し、つぎの研究課題の選定に活用できるよう評価資料の整備を急ぐ必要があると思います。

雑誌購入費の共通経費化 最新の学術研究の情報源である海外論文誌の価格高騰は購読中止に繋がり、本学各部局の研究推進への支障が懸念されます。このような事態を避ける方策として当該分野における中核的な学術雑誌や Nature のように広い分野に影響のある雑誌の購入予算を共通経費として大学全体の立場で維持していくことが緊要である、との考えからコアジャーナルを選定し、附属図書館または分館に集中配架するとともに、併せて電子ジャーナルとして提供してきました。

本年度は、これまでの国立大学として最終年度となり、各部局からの再配分が従来どおり認められましたが、平成 16 年度以降の法人化後は予算配分の方式が変わり、附属図書館として所要額を申請することになりました。図書購入費の中央経費化が実現することであり、不足費目の学長裁量経費による補填という緊急避難的な措置を繰り返すことなく、当初から申請額に組み込むことができると考えております。

コア・ジャーナルの見直しと電子ジャーナル 「インターネットは巨大な電子図書館である」という認識は急速に定着しつつあり、徳島大学では Elsevier, Blackwell, Springer, Wiley 社など著名な出版社のコンソーシアム(組合)に加入し、電子ジャーナル活用への対応がはじまっています。

本学にない雑誌の論文が研究室のパソコンで読めるようになりましたが、一定数以上の冊子体雑誌を購読するという条件があります。平成 14 年には 3,200 余を利用できましたが、研究室経費で購入していた雑誌の購読中止が多数にのぼり、出版社の要求する購読数を確保できなかったため、平成 15 年 4 月からは 2,600 余に減少しました。それでも、Elsevier の Science

Direct 全文利用件数は月平均概数で 2001 年 1,000 件、02 年 3,500 件、03 年前半は 6,500 件にのぼっています。

一方、購読雑誌 150 のうち上位 50 は年間検索 120 件(月 10 件)以上ですが、年間 12 件(月 1 件)以下が 40 に上り、その反面、非購読雑誌のうち年間 120 件(月 10 件)以上が 50 に達しており、利用頻度に応じた購読雑誌の見直しが必要でしょう。当面は有力出版社の刊行雑誌が焦点となっていますが、評価が高く影響力の大きい学術論文誌は、各国・当該分野の中核学会が出版しており、今後は学術誌の評価・選別が大きな課題となります。

特許電子図書館 特許情報の検索については外部に依頼してきた方々も多いと思われませんが、研究成果の実用化が強く要請される状況にあって、各自の研究課題に関連する特許の申請状況の調査は不可欠となり、検索件数の急増は必至と考えています。特許電子図書館(IPDL)として特許庁が無料で公開しており、附属図書館のホームページ「お役にたつページ」#6 からアクセスできますが、学術研究の検索は附属図書館、特許情報の検索整備は地域共同研究センターの知的財産本部が中心になると思われません。

4 おわりに

附属図書館の機能としては、紙の寿命の問題から、最近 Digital Archives による資料保存の改善と併せて死蔵に近かった資料の公開がはじまっていることを指摘しておきます。また情報発信機能や情報リテラシー教育に関して、高度情報化基盤センターとの連携については、紙幅の関係から割愛せざるを得ませんでした。学習機能と研究機能に限って、今後の課題を述べさせて頂きました。図書館をもっと活用しましょう。

(はやしひろむ・工学部教授)



附属図書館整備・改善の歩み

区 分	実 施 経 過		
	平成2年度～平成7年度	平成8年度～平成10年度	
組織・機構	事務組織改組(平2) 部課制設置(平3) 附属図書館事務組織改組(平4) 館報編集委員会(平6) 附属図書館図書選定委員会(平6)	蔵本分館図書選定委員会(平8) 附属図書館将来計画検討委員会の設置(平9)	
図 書 館 機 能	総合	土曜開館実施(平4) 英文利用案内作成(平5) ML ニュースを速報版に変更(平6) 学外者利用案内作成(平6) 本館夜間開館時間延長(平6) 自己点検評価報告書刊行(平7) 蔵本分館試験期夜間開館時間延長(平7)	Library Announcement(すだち速報版)創刊(平9) 館報の刷新(平9) 本館書庫入庫制限の変更(平9) 特別貸出(教室貸出)方式の変更(平9) 図書館学外者利用申請の変更(平9) 図書館利用案内の刷新(平9) 学報掲載の統計情報リメイク(平10) 図書館将来計画の策定(平10) 夜間開館時間の通年延長(分館:平10)
	学習	共通教育選書計画策定(平4)	学生用図書購入計画の見直し(平9) 「これならできる情報リテラシー」に参考資料Ⅱ掲載(平10)
	研究	情報検索サービス開始:JOIS(本館:平2) 大型コレクション整備(平3,5,7) ILLシステムによるサービス開始(平4) ファクシミリ文献複写サービス開始(平4) ILLシステムによるBLDSCサービス開始(平6) 自然科学系特別図書の整備(平7)	自然科学系特別図書の整備(平9)
	保存		
	電子	図書館専用電算機導入(平2) 学術情報センター接続(平2) OPAC運用開始(平3) CD-ROMによる情報検索サービス開始(平5) 情報検索ガイダンス(分館:平3～) CD-ROMネットワークサービス開始(平6) 図書館専用電算機の更新(平6) UNIX版OPAC(TELNET)運用開始(平6) UNIX版CD-ROMサーバシステム(ERL)導入(平7) 電子メールによるILL申込受付(平7) 電子掲示板設置(平7)	UNIX版図書館トータルシステム導入(平8) WWWブラウザによるOPAC運用開始(平8) 古絵図の画像データベース化(学内特別教育研究費)(平9) 図書館ホームページ開設(平9) CAサーバーの導入(平9) ERL(Current Contents, MEDLINE)検索講習会(平9) 伊能図・古絵図の高精細画像データベース化(科学研究費)(平10) 資料ID変換ソフト開発(平10) CAon CD, Clon CDネットワークサービス開始(平10) 無料電子ジャーナルサービス開始(平10) 視聴覚ライブラリーシステム導入(平10)
事業	泉山文庫目録改訂版(本館:平2) 学術情報に関する講演会(平3～) 学術情報センター地域講習会開催:目録システム(平4～5) 学術情報センター地域講習会開催:NACSIS-IR(平5～6) 国立大学図書館協議会総会開催(平5)	学術情報センター地域講習会:ILLシステム(平10) 資料ID変換及びラベル添付作業(平10)	
施設・設備	BDS設置(本館:平4) 情報検索コーナー設置(平5) 留学生資料コーナー設置(平5) 身障者用設備の整備(平6) 蔵本分館増改築(平6) 蔵本分館電動集密書架設置(平6) サイン整備(平7) 参考書架増設(平7) BDS更新(分館:平7)	学術雑誌閲覧室設置(平8) プリペイドカード方式複写機導入(本・分館:平8) サービスカウンターの更新(本館:平9) 身障者用閲覧机増設(本館:平9) 図書自動貸出装置導入(平9) 閲覧室椅子の更新(平9～10) 閲覧室椅子の更新(平10) マルチメディア・プラザの設置(本館:平10) 特別資料閲覧室・展示室設置(平10) 雑誌閲覧室の整備(平10) カラーコピー機導入(分館:平10)	
要員研修	目録システム担当要員養成研修(平1～5)13名 大学図書館職員長期研修受講(平2～6)3名 総合目録データベース実務研修(平3～5)3名 情報検索システム担当要員養成研修(平5～6)23名 図書館等職員著作権実務講習会(平7)8名	大学図書館短期研修受講(平9)1名 図書館等職員著作権実務講習会(平9)1名 図書館等職員著作権実務講習会(平9)1名 大学附属図書館短期研修受講(平10)1名 図書館等職員著作権実務講習会(平10)1名	
規定・その他	資料不用決定取扱基準(平1決定) 図書選定委員会規約(平6)	図書選定委員会規約(平8制定) 貴重資料指定基準・取扱要領(平9) 徳島大学附属図書館広報委員会規約(平9) 徳島大学附属図書館館報発行要項(平9) 徳島大学附属図書館インターネットによる広報実施要領(平10) 徳島大学附属図書館館報発行要領(平10)	

実施経過	実施計画	今後の課題
平成 11～平成 14 年度	平成 15 年度	
分館情報サービス係と分館情報調査係の統合及び電子情報係の設置(平 12) 管理業務の一元化(平 13) 独立行政法人化への対応(平 14～)	独立行政法人化への対応(平 14～) 事務一元化後の業務の整備	事務組織の改編
ボランティアの導入(平 11) 日曜開館の実施(平 12) 24 時間開館の実施(平 12) 夜間開館時間の延長(試験期)(平 13) 自己点検評価アンケート実施 - 全教官・大学院生対象(平 13) 自己点検評価の実施・報告書の刊行(平 14) ホームページの改善と英文版の開設(平 14)	試験期の祝日開館の実施 館外貸出条件の改善 附属図書館ホームページの改善 印刷物と電子媒体の使い分けによる 広報の充実	情報リテラシー教育の支援 館報「すだち」の電子媒体化
参考図書コーナーの設置(平 11) 「これならできる情報リテラシー」に参考資料Ⅱ改訂(平 12, 13) 図書館利用指導の推進(平 14～) 授業へのサポートの定着(平 14～)	学生用図書の整備・充実方策の検討 図書館利用指導の推進(平 14～) 授業へのサポートの定着(平 14～)	学生用図書の整備・充実
学術雑誌の集中化の実施(平 11) 自然科学系特別図書の整備(平 11) コア・ジャーナル経費の共通経費化(平 13) SciFinder Scholar の導入(平 14)	コア・ジャーナルの見直し グローバル ILL への参加	電子媒体二次資料の充実 コア・ジャーナルの一層の整備と利用の改善
古絵図の補修(平 11) 重複資料の廃棄(平 14～)	重複資料の廃棄(平 14～)	収蔵スペースの確保
貴重資料高精細デジタルアーカイブ(WWW)公開(平 11) 雑誌記事索引のネットワークサービス(平 11) 図書館業務システムの更新(平 12) 目録データ遡及入力の実施(平 12～) 附属図書館ホームページの改訂(平 13) 電子ジャーナルの整備(平 13) SciFinder Scholar の導入(平 13) 医学中央雑誌のネットワークサービス(平 13) 電子ジャーナルのトライアルサービスの実施とその評価(平 14) 目次速報データベースの遡及入力(平 14～) 徳島大学紀要目次情報 DB の提供(平 14～)	目録データ遡及入力(第 4 年次計画) 徳島大学紀要目次情報の整備(平 14～) AV メディア室のサービス拡充 電子ジャーナル, 二次情報 DB の充実 貴重資料の DB 化の促進	貴重資料の電子化 電子メディア利用の拡大 OPAC データの整備(遡及入力) 電子ジャーナル, 二次情報 DB の充実 附属図書館ホームページを通じての提供情報の充実
徳島県立博物館企画展特別協力(平 11) 新 NACISIS-IR 説明会(平 11) 中国四国地区電子的資料購入のためのコンソーシアム形成 W / G 参加(平 11) 情報検索講習会の実施(平 11) 中国四国地区大学図書館研究集会開催(平 12) 国立大学附属図書館事務部長会議開催(平 12)	学術情報に関する講演会の開催	資料展示会の開催 学術情報に関する講演会の継続 利用者への各種講習会実施
単体 CD-ROM 検索システム設置(本館:平 11) 貴重資料高精細デジタルアーカイブ閲覧システム(平 11) オーディオビジュアル・メディアカル室の設置(平 11) グループ研究室の設置(平 11) マルチメディア・コーナーの設置(分館:平 11) 閲覧機・椅子等の更新(平 11～13) OCS 端末機の増設(平 11) 情報コンセントの設置(平 12) 夜間入室システムの設置(分館:平 11 本館:平 12) Ariel システムの本館・分館間試用開始(平 12) マイクロリーダープリンター更新(本館)(平 12) 閲覧室網戸の設置(平 13) 自動入退館管理システム(平 13) 環境整備と館内アメニティの改善(平 14～)	附属図書館の増改修計画 館内スペースの有効活用について検討 環境整備と館内アメニティの改善(平 14～) 特殊資料室の整備	附属図書館の増改修計画 館内スペースの有効活用 環境整備
文書資料保存研修会(平 12) 2 名 大学図書館長期研修(平 12) 1 名 徳島県図書館職員専門講座(平 12) 9 名 大学図書館職員講習会(平 12～13) 2 名 電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会(平 13) 1 名 紀伊屋書店電子ジャーナルユーザーセミナー(平 13) 1 名 国立情報学研究所公開講演会(平 13) 4 名 徳島県図書館職員研修会(平 13) 6 名 四国地区オンライン研修会(平 13) 4 名	大学図書館長期研修(平 15) 1 名 情報システム統一研修 1 名 図書館等職員著作権実務講習会 1 名 徳島県図書館職員研修会 1 名 放送大学利用職員研修 6 名 古文書保存講座(県文書館) 3 名	旅費の確保と各種研修の受講充実
貴重資料高精細デジタルアーカイブ取扱要領(平 11) 徳島大学附属図書館ボランティア受入実施要領(平 11) 徳島大学附属図書館オーディオビジュアル・メディア室利用要領(平 11) 徳島大学附属図書館グループ研究室利用要領(平 11) 徳島大学附属図書館自己点検・評価専門委員会規則(平 14)	図書館予算についての検討 資産台帳データの整備 規程類の整備 学内諸機関との連携強化	学内外諸機関との連携強化

平成 15 年度附属図書館事業計画について

附属図書館では毎年、その年の事業計画を策定して、業務の改善と図書館サービスの向上に努めてきています。

これまでの取り組みについては、「附属図書館整備・改善の歩み」をご覧ください。

1. 平成 14 年度事業計画の進捗状況

平成 14 年度中に実施することができた事業の主なものは次のようです。学内の皆様のご支援とご協力が心から感謝申し上げます。

2・3 階開架図書閲覧室、2 階学術雑誌閲覧室の書架を増設し、配架スペースを確保
ピクチャーレールを敷設し、学生制作絵画展示のための環境整備

約 4 万 4 千冊の目録遡及入力実施（計画の 3 年目）

電子ジャーナル 3,200 タイトルの提供

SciFinder Scholar の導入（1 月）

DNA（朝日新聞記事 DB）の導入

『自己点検・評価報告書』の刊行

重複資料約 3 万冊の廃棄

資産台帳 DB の入力・整備

英文版ホームページの開設

マルチメディアプラザ端末の更新

2. 平成 15 年度事業計画

6 月 24 日に開催された附属図書館運営委員会において承認された、今年度の事業計画は以下のとおりです。

A 建物、施設・設備

1. 附属図書館本館の増改修計画
2. 館内スペースの有効活用
3. 環境整備と館内アメニティの改善
4. 特殊資料室の整備

B 図書館資料の充実

1. コア・ジャーナルの見直し
2. 学生用図書の整備・充実方策の検討

C 利用者サービスの改善

1. 図書館利用指導の推進と授業へのサポート
2. 館外貸出条件の改善
3. 試験期間中の祝日開館の実施
4. 国際 Interlibrary Loan への参加

D 電子図書館的機能の充実

1. 所蔵資料の遡及入力（第 4 年次）
2. 電子ジャーナル、二次情報 DB の充実方策の検討
3. 貴重資料の DB 化の促進
4. AV メディア室のサービス拡大
5. 徳島大学紀要目次情報の整備

本学教官著作寄贈図書

寄贈者	著者名	書名	本館
村田 明広	狩野謙一, 村田明広著	構造地質学 CD-ROM カラー写真集	
安東 諒	安東 諒著	あわいのゆらぎ	
丸山 幸彦	丸山幸彦著	カイクの世界とソラの世界：阿波地域史研究の一側面	
伊藤 利明	大橋 守, 伊藤利明, 中山慎一共著	これならできる情報リテラシー改訂版	
長井 伸仁	Nobuhito Nagai	Les conseillers municipaux de Paris sous la Troisième République (1871-1914) (Histoire de la France aux XIXe et XXe siècles:56)	
立花 敬雄	立花敬雄著	資本主義的生産の研究	
松本 俊夫	松本俊夫編著	新・分子骨代謝学と骨粗鬆症	
山本 尚三	山本尚三	山本尚三教授業績集	
戸田 宏文	by Hirofumi Toda	Hirofumi Toda Collected papers	
野地 澄晴	Sean B.Carroll, Jennifer K.Grenier, Scott D.Weatherbee 著 / 上野直人 野地澄晴監訳	DNA から解き明かされる形づくりと進化の不思議	

寄贈者	著者名	書名	分館
伊東 進	伊東 進, 田尻久雄編著	ポストゲノム時代の内視鏡学	
高杉 益充	高杉益充監修	薬剤識別コード事典 平成 15 年改訂版	
野地 澄晴	Sean B.Carroll, Jennifer K.Grenier, Scott D.Weatherbee 著 / 上野直人 野地澄晴監訳	DNA から解き明かされる形づくりと進化の不思議	
川西千恵美	深井喜代子, 福田博之, 禰屋俊昭編集	看護生理学テキスト：看護技術の根拠と臨床への応用	
川西千恵美	川西千恵美ほか執筆	「やってはいけない」ケアと処置（ナーシング・フォーカス・シリーズ）	
松本 俊夫	松本俊夫編集	骨粗鬆症診療実践マニュアル	
森本 忠興	森本忠興編著	乳癌検診にすぐに役立つマンモグラム・アトラス	
戸田 恭司	戸田恭司	歯科医のための患者学	
戸田 恭司	戸田恭司, 森下真行編著 / 安井良一, 阿川真澄著	口腔ケアでいきいき	
大下 修造	大下修造編集	麻酔管理に関連する受容体	

E 国立大学法人化への対応

1. 図書館予算についての検討
2. 資産台帳データの整備
3. 規程類の整備
4. 重複資料の廃棄

F 広報活動

1. 附属図書館ホームページの改善
2. 印刷物と電子媒体の使い分けによる広報の充実

G その他

1. 学内諸機関との連携強化

購入外国雑誌の中止と電子ジャーナル タイトルの減少について

前号 (No.66) で「2003年4月以降の電子ジャーナル - 学術情報資源存亡の危機!」という見出しで、購入外国雑誌の中止により本年提供できる電子ジャーナル数が前年よりも大幅に減少する予定であることをお知らせしてきたところです。

このほど2004年の購入外国雑誌について、新規・中止等の予約状況がまとまりました。それによりますと、2004年は本年よりもさらに175点購入外国雑誌が減少することになります。(中止リストは図書館ホームページを参照してください。)

最近10年間の購入外国雑誌(冊子体)のタイトル数の推移は表1のとおりとなっています。

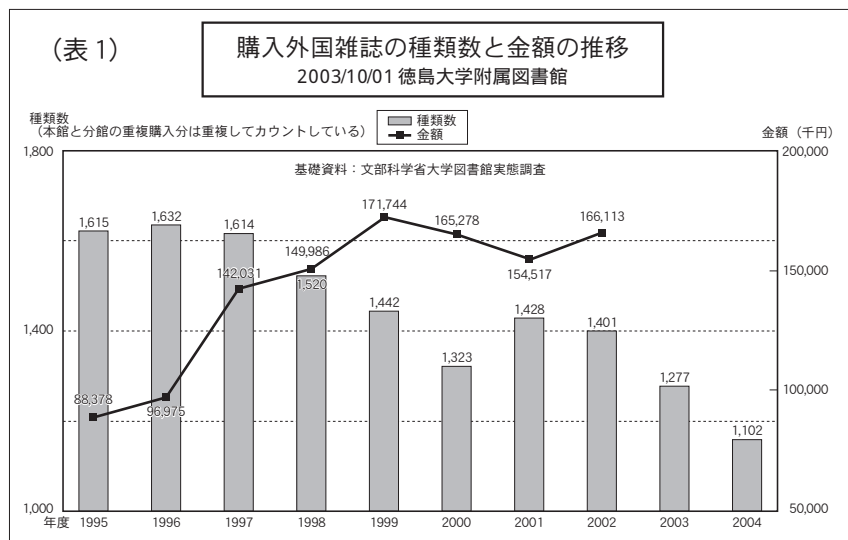
一方、附属図書館ではコンソーシアムに参加し、より多くの電子ジャーナルが利用できるよ

うに努めてきました。これはコンソーシアムに参加することにより、本学購入以外のその出版社のタイトルが全て利用できるというメリットがあります。

しかし、コンソーシアム参加の条件として、金額ベースで冊子体のキャンセルを禁止しています。そのため、購入タイトルの減少は電子ジャーナルの利用に大きく影響することになります。

2004年の中止雑誌でコンソーシアムに関連するものは、以下のようになっています。

出版社	中止タイトル
Elsevier	17点
Blackwell	19点
Springer	9点
Wiley	2点
合計	47点



この結果 2004年は少なくとも Blackwell 社はコンソーシアムからはずれることとなります。また、電子ジャーナルを導入するために、これまで以上の経費の確保は難しいため 2004年もまた利用できる電子ジャーナル数が減少することをお知らせします。

ちようりゆう

学生制作絵画作品を展示しています

《本館ブラウジングコーナー、学術雑誌閲覧室で》

総合科学部人間社会学科平木美鶴先生の御協力を得て、国際社会文化研究コース4年生絵画表現研究専攻の佐々木洋輔さん、井上淳一さんが制作した絵画作品を展示しています。ブラウジングコーナーには井上さんの「ある日」という絵画作品を展示しており、明るい中でも落ち着いた環境を醸し出しています。また、佐々木さんの作品である学術雑誌閲覧室の「青い夜」と「はてな」は、立ち止まって鑑賞する利用者も多く、こちらも全体として明るい雰囲気になったとの好評を得ています。

図書館にお立ち寄りいただき、みなさんも御鑑賞ください。



【学術雑誌閲覧室】

【ブラウジングコーナー】



グローバル ILL サービス開始（本館）

図書館のサービスの1つとして ILL (Inter Library Loan) があります。他大学の図書館から、資料や複写物を取寄せるサービスです。これまで本館では、国内機関に所蔵されていない資料については、BLDSC (英国図書館原報提供センター) のみに申し出ておりましたが、この度、北米の大

学図書館をメンバーとしたグローバル ILL (GIF) プロジェクトに参加しましたので、海外文献収集範囲が拡大されることになりました。

* GIF (Global ILL Framework) プロジェクトは、国立大学図書館協議会 (国際学術コミュニケーション特別委員会) が国立情報学研究所、国公私立大学図書館協力委員会、米国研究図書館協会及び北米日本研究資料調整協議会等と協力して進めているプロジェクトです。

図書書誌所蔵目録データベース 遡及入力事業第4年目

徳島大学附属図書館では利用者が当館所蔵の図書を迅速的確に検索できるよう目録の電子化が行われており、平成元年度受入図書分からデータ入力を開始して十数年になりますが、特に平成12年度からの10ヵ年計画遡及入力事業の実施により電子化が急速に進んでいます。遡及入力事業で昨年度は本館所蔵図書の約4.4万冊の目録データを入力、この3年間では約12万冊を入力しました。平成14年度末現在、徳島大学全蔵書約80万冊のうちデータ入力冊数は約39万冊で、製本雑誌等約17万冊を除くと、データが未入力の蔵書はあと残り約24万冊です。

平成15年度は遡及入力事業の4年目にあたります。本年度は昨年度と同じように4月から1年間を通じてアルバイト3名を継続雇用し目録データの輸入を実施します。遡及入力対象資料としては、本館所蔵図書の人文・社会科学分野が中心となります。また、平成16年度の大学法人化を控え資産台帳とのリンクを考慮し目録所蔵データに図書の登録番号の輸入もする予定です。

URL <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>

徳島大学附属図書館報「すだち」No.67
2003年10月28日
編集館報編集委員会
発行徳島大学附属図書館

<表紙デザイン・レイアウト> 清水國夫
〒770-8507 徳島市南常三島町2丁目1番地
TEL (088) 656-7584
FAX (088) 656-9016